

平成29年3月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



日本橋高速道路建設作業 1962年 デッサン(コンテ)



顔1 制作年不詳 木版

「顔」「日本橋」

終戦直後の昭和22年、母との結婚話がまとまり、結納を交わすため七戸から祖母が上京した。山積みのガレキの間に闇市ができ人々は群がり、粋筋の街日本橋界隈も雑多な街並みで戦後再出発をした。その日本橋三越に初めて来店した祖母は、エスカレーターに乗った時、草履を脱いで足袋のまま二階に上がったと、県人が来るたび父は大笑いをしていた。若い時から東京で暮らしていた自分は、そんな田舎者ではないと自慢げに言うのであった。

跡取り長男が不惑の歳になってやっと人並みに家庭が持てると、祖母はどんな思いで夜汽車の人になったことか。いつもそう感じていた母はある時「自分だつて大恥かいたくせに」と義憤あらわに話しはじめた。

昭和30年代後半から都バスは、後方横から乗車し、料金を支払いながら前方から降車する、あの「ワンマンバス」に替わりはじめていた。

いつものように前から乗ろうとした「ワンマンバス」が初めての父は、運転手から「後からです」と云われ、あろうことか後ろ向きになって背後からバスに乗り込んだぞうだ。「どうしてこんな危険な格好で乗らねばならないのか」と七戸訛の甲高い父の声が車内に響き渡り、後方から乗った母は余りの恥ずかしさに他人の振りをしたという。

常に父を基準に、父のために生涯を捧げた母であったが50を優に過ぎた男が見当違いの文句を言う顔を凝視できなかつたのであろう。

出自のことは己の責任ではなく、「不条理」そのものであるが、男の顔は「履歴書」と云うではないか。仲間を見ながらどんな人生を歩んできたか、顔に責任をとる歳になつたとつくづく感じる。

ちなみに女の顔は「請求書」だそうです。

(館長 鷹山ひばり)

ナポレオン皇妃ジョゼフィーヌが愛した宮廷画家

ルドゥーテのバラ展

前期4月15日(土)～5月28日(日)／後期5月30日(火)～7月9日(日)

～七戸の春を多彩な花たちが飾ります～

4月15日(土)から、特別展「ルドゥーテのバラ展」を開催します。

ルドゥーテは「花のラファエル」
「バラのレンブラント」とも称される宮廷画家です。ルドゥーテの名前は知らなくても、絵を見たことがある方は多いのではないのでしょうか。ここでは、展覧会を見る前に知っていることより一層楽しめる情報をご紹介します。

ルドゥーテについて

ピエールルジョゼフ・ルドゥーテは現在のベルギー南東部(当時はオーストリア・ハプスブルク家に属するルクセンブルク公の領地)、フランス語圏のワロン地方のサン・ユベールに生まれ、フランスが最も激動にゆれた時代を生き



た宮廷画家です。ポタニカル・アート(植物画)発展のために、技術開発やその普及にも努め大きな足跡を残しました。ルドゥーテは手の込んだ技法を用い、花や植物の持つ繊細さ、瑞々しさを失うことなく、まるでそのまま映しとったかのような作品を完成させました。



実は版画です。

よく目にするルドゥーテの植物画は、銅版画に水彩絵の具で着色したものです。ルドゥーテが原画を描き、掘り師がその原画をもとに銅板に彫り、刷り師が刷った上から水彩絵の具で色を付けて完成

します。ルドゥーテはステイップル・エングレーヴィング(点彫版)という、当時イギリスで開発された高度な銅板画技法を採用しました。ステイップル・エングレーヴィング技法とは、通常銅版画は線で表現するのに対して、この技法は点で表現します。大変時間のかかる作業にはなりますが、銅版画特有の鋭い線がなく、植物の質感も感じられるような柔らかさを表現することができます。作品をよく見ると花びらや葉が多く、点で作られていることが分かります。



画像提供
コノサーズ・コレクション東京

鷹山宇一記念美術館
News & Report

平成29年度も皆様に喜んでいただけるような展覧会を予定しております。
皆様のご来館を心よりお待ちしております。

■美術館スケジュール(予定)

ナポレオン皇妃ジョゼフィーヌが愛した宮廷画家

「ルドウーテのバラ展」

前期4/15(土)～5/28(日)
後期5/30(火)～7/9(日)

ボタニカル・アート(植物画)の頂点を極め、「花のラファエロ」、「バラのレンブラント」とも称賛される天才画家、ピエール・ジョゼフ・ルドウーテ。彼が描いた代表作「バラ図譜」を中心に、もう一つの代表作「美花選」からも選りすぐりの作品を加えて、バラを愛するすべての方々にお贈りします。詳しくは2ページをご覧ください。

矢口高雄の世界

「天翔ける童心」展

7/15(土)～9/3(日)
釣りキチ三平を始め、これまでに

矢口高雄が描いた作品を幅広く展示し、作家のこれまでの漫画家の軌跡をたどるとともに、多様なテーマに挑んできた作家の人間像に迫ります。

「渡辺貞一誕生100年展」

9/16(土)～11/5(日)

青森県出身の洋画家・渡辺貞一の生誕100年を記念して、渡辺貞一作品160点を展示します。渡辺の絵は、冷たく澄んだ空気が画面を覆い、ぴんと張った緊張感が漂っています。数々の困難に遭いながらも、生涯絵を描き続け、独自の世界観を生み出した渡辺貞一の画業を振り返りながら、多くの方に「渡辺貞一」を知っていただく契機となることを願って開催します。

「第17回鷹山賞児童作品展」

第17回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

11/12(日)～1/21(月)

青森県内の小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」は、画家鷹山宇一の画業を顕彰するとともに、将来を担う子どもたちが絵画制作を通して、豊かな感性と、自由な創造の喜びを味わってもらえ

たらと願い開催するものです。本展では入賞・入選に選ばれた作品を展示するとともに、併せて、一般財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する「地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」から世界各国の子供たちの作品を紹介します。

「二科青森支部60周年記念展」

鷹山宇一と二科の仲間たち

2/6(火)～3/11(日)

二科青森支部結成60年を記念して青森支部創立会員を始めとして、現在に至る支部会員の二科出品作品、並びに二科会会員等の作品を一堂に集め展示します。

「第77回国際写真サロン展」

3/17日(土)～3/31(土)

全日本写真連盟が主催する「国際写真サロン」から入賞作品130点を紹介します。

画像加工を駆使し独創性と芸術性に富んだ写真表現をご堪能いただける展覧会です。



イベント情報

■ルドウーテ・チェンバロコンサート

会場には、ルドウーテの絵画を模写したチェンバロを展示するとともに、彼が生きた時代のバロック音楽を実際に演奏致します。マリーアントワネットが作った歌もお聴きください。

開催日程

4/22(土)・23(日)
中田聖子(チェンバロ)・鷹山美緒(ソプラノ)
5/20(土)・21(日)
佐藤理洲(チェンバロ)・鷹山美緒
6/17(土)・18(日)
中田聖子・鷹山美緒

※各日11時と14時30分の2回、それぞれ約30分間の演奏となります。
※入館料のみでどなたでもお聴き頂けます。(要入場券提示)
※演奏予定は変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

■特別記念講演会

三村三千代氏(八戸学院短期大学客員教授)による特別記念講演会を行います。

開催日: 6/9(金) 17:30

※申し込み不要ですが、当展覧会のチケットをご提示ください。

平成 28 年度
— 鷹山宇一記念美術館ものづくりワークショップ —

『美術館アートクラブ』

1月は【パステル画】・2月は【七宝焼】を行いました。講師はもちろん佐伯知美先生です。初めて参加された方もいましたが、皆さん話が弾んでとても楽しんでいました。そんな美術館工房での楽しいひとときを皆様にご紹介いたします。

1月28日(土) 【パステル画】



今年度開催したパステル画も3回目になりましたが、今回は5名の方が参加して下さいました。皆さん慣れた手つきで、パステルをカッターで削り用紙に色をのせていきます。テーマは『山』です。1月の山といったらどんな山をイメージしますか?? わたしは美術館から見える雪化粧した八幡岳と八甲田連峰です。参加した皆さんからは「この山の形きれいなね」「空の空間はどのくらいあったらいいかしら」「山は上気味?それとも下に置こうかしら」と制作中の会話は本当に楽しいものです。

すごく素敵なお見せ出来なのが残念です。「光を背に雪化粧した山」「日本画を思わせる山」そして、皆さんの山の麓には林が広がっていました。色は、是非皆様で想像して下さい。参加下さいました皆さんありがとうございました。



▲どんな色の山が描かれているか想像してみてください。

2月25日(土) 【七宝焼】

久しぶりに開催した七宝焼です。この講座はとても人気があります。今回も町内外から定員数いっぱい10名の方が参加して下さいました。作品は1人2点です。ネックレスは全責、もう1点はブローチかイヤホンジャックです。ガラス質の釉薬を高温で焼成し焼き付けます。

今回は、自由に釉薬を乗せて焼成しました。中には、隣り合った釉薬の種類によって焼成後に模様浮かび上がりました。他にも、釉薬を乗せる段階で違う色が混ざってしまい、焼成したら偶然にも津軽塗りのような模様ができた方もいました。このような発見



をしたら、すぐにみんなで鑑賞します。すると「ここが素敵ね」「どっやったらこうなったの?」「これも見て」と自然と会話が弾みます。皆さん楽しい時間をありがとうございました。

佐伯先生を囲んでのニコマです。楽しそうですね。◀



平成28年度最後のワークショップの様子は次回お伝えいたします。

美術館日誌

◆ 1月 ◆

- ▼ 1日(日)・2日(月) 年始休館
- ▼ 8日(日) 二科青森支部木村支部長来館
(館長・常務理事)
- ▼ 12日(木) 県民カレッジ館長講演
(美術館2階)
- ▼ 13日(金) 東京出張(館長)
- ▼ 14日(土) 宮城県立美術館出張(館長・遠藤)
- ▼ 17日(火) 観光協会役員会出席(館長)
特別展「渡辺貞一展」打合せ
(青森／遠藤・對馬)
青森県アートプロジェクト事業説明
県生活文化課吉田・夏井氏来館
(館長・常務理事)
- ▼ 18日(水) 観光人材研究会出席(館長)
- ▼ 19日(木) 特別展「釣りキチ三平展」打合せ
(アートカフェ五十嵐様・館職員)
- ▼ 22日(日) 第16回鷹山賞児童作品展／
第16回地球環境世界児童画
コンテスト優秀作品展最終日
七彩会
- ▼ 23日(月) ～2月6日(月) 展示替休館
- ▼ 25日(水)・26日(木)
特別展「ルドウーテ展」打合せ
(東京／館長・遠藤)
講師 佐伯知美
- ▼ 28日(土) ワークショップ「バステル画」
講師 佐伯知美
七戸文化村駐車場整備工事説明会
(理事・監事・評議員)
- ▼ 31日(火) アートプロジェクト打合せ
県生活文化課夏井氏来館
(館長・常務理事・遠藤)

◆ 2月 ◆

- ▼ 1日(水) ～5日(日) 展示替休館
- ▼ 4日(土) 渡辺貞一画集打合せ
(デザイン・館長・常務理事・遠藤・對馬)
友の会新年会(杉屋敷奥山)
- ▼ 7日(火) 常設展開催
県教委公益財団法人定期立入検査
(常務理事・成田)



▲▼ 県民カレッジ講演



- ▼ 8日(水) アートプロジェクト内卓会議①出席
(館長・遠藤・織川・對馬(康))
- ▼ 15日(水) アートプロジェクト打合せ
県生活文化課 吉田・夏井氏来館
(館長・常務理事・對馬(康))
- ▼ 18日(土) 鷹山賞作品引取最終日
七彩会
- ▼ 19日(日) 渡辺貞一作品写真撮影①
- ▼ 20日(月) ～22日(水)
アートプロジェクト視察
(徳島神山町／遠藤・織川・對馬(康))
- ▼ 23日(木) 特別展「ルドウーテ展」打合せ
(東京／遠藤・織川)
- ▼ 25日(土) ワークショップ「七宝焼」
講師 佐伯知美

◆ 3月 ◆

- ▼ 1日(水) 絵馬懇談会準備
- ▼ 2日(木) 絵馬確認・懇談会
(小田様・金見様・町教育委員会)
- ▼ 7日(火) 県民カレッジ取材
(遠藤・織川)
- ▼ 8日(水) 三役会議(理事長・常務理事・館長)
- ▼ 9日(木) 岩手県立美術館出張
(遠藤・對馬(憲))

- ▼ 11日(土) 理事会・懇親会(盛田旅館)
- ▼ 12日(日) 八戸市美術館
(遠藤・織川・對馬(憲)・對馬(康))
アートプロジェクト講演
八戸ポータルミュージアム(はっち)
(遠藤・織川・對馬(康))
- ▼ 13日(月) ～17日(金) 展示替休館
- ▼ 13日(月) 学芸員研修(東京／遠藤)
- ▼ 18日(土) 国際写真サロン展開催
- ▼ 23日(木) アートプロジェクト内卓会議②出席
(七戸庁舎／館長・遠藤・織川・對馬(康))
- ▼ 25日(土) 評議員会
ワークショップ「ゴッホパージュ」
講師 佐伯知美
- ▼ 26日(日) 渡辺貞一写真撮影②
七彩会
- ▼ 27日(月) ～28日(火)
アートプロジェクト視察
(SEART CHITOMA／遠藤・織川)
- ▼ 31日(金) ぐれつとパス終了



平成28年度を振り返って

彫刻家鈴木正治の
作品を訪ねてV

—岩手県 岩手町—

十和田市 小川辰子

岩手町では、同町出身の画家齊藤忠誠（1926～1986）が中心となり、73年から「岩手町石彫シンポジウム」と銘打って国内外の彫刻家を招き、岩手産の黒御影石を主材とした彫刻作品の公開制作を三十年以上の長きにわたって行っていました。

鈴木さんはこのシンポジウムを機に黒御影石による本格的な彫刻制作を始め、第三回から第十回までと第二十回特別企画展に参加しています。その際、同町の金沢石材店に何度も滞在し、店主の金沢末松さんから石彫の技術を一から教わり、食事も宿泊もお世話になりました。石材店の前には「地球年齢四十五億年 生物発生三十億年 人間は最も若い」と鈴木さんらしい言葉が刻まれた作品

（写真①）があり、庭先には「タンジョウ」（写真②）



① 地球年齢…

第四回には「二つのわ」（友を呼ぶ）（写真③）を制作しましたが、この友とは尊敬する齊藤のことで、岩手町役場前の彫刻公園にありま

す。公園入口の記念碑には、齊藤の言葉「荒廃し続ける文明を救うものは文化であり、その原点を秘めていたのは地方においては、もはや他にならぬ」が刻まれています。このシンポジウムの創始者であり、十周年記念として役場前に彫刻公園を計画した氏の強い意志が伝わってきます。

私も十周年石彫シンポジウムに伺ったことがあり、岩手町の石彫に対する熱い空気を感じたものです。その時の作品が「花」（写真④）（写真④）で、岩手町保健センターで、松氏に對し、十周年の祝福と感謝の気持ちを込めて制作したこの作品です。



④ 花



③二つのわ(友を呼ぶ)



② タンジョウ

最後に紹介する作品は、第二十回特別展で鈴木さんの愛弟子である石岡豊美さんと制作した「ちきゅうの子」（写真⑤）石神の丘美術館）です。素材の黒御影石は高さ2.3m、幅4.2m、奥行3.4mの巨石であり、三方向に○△□形の穴（入口）

を掘り進め、中央に大人が座れる程の空間を作りました。鈴木さんは「ちきゅうの子」の制作意図を「子どもが遊び場になればよい。子どもが手で石に触れ、体が中心の部屋に入つたとき、ちゃんと座って、友達がいれば何かを語り、一人の時は何かを思うか。石の壁にもたれて世界のことを考えるだろうか。」と語っています。

当時、七十二歳だった鈴木さんは制作直前に胃がんの手術で入院したため、石岡さんはその間、一日に3cmしか掘り進められないという気の遠くなるような作業を続けました。退院後、発案者であることに強い責任を感じていた鈴木さんは、体力の快復を待たず、ハンマーを振り続けたのでした。制作は翌年まで持ち越され、実に七ヶ月間もかかって完成しました。

この連載も今回が最後となりますので、鈴木さんと関わる方々や私の思いをお話ししたいと思います。私はかつて七戸町で、短い期間でしたが、地方にいても本物の美術や音楽に触れることで生活の中に彩りをもたらしたいと考え、現代美術の作



⑤ ちきゅうの子

品を紹介していました。鈴木さんはそこに何度も足を運んでくださり、同行されていたのが最大の理解者であり支援者であった齊藤葵和子さん、マネージャー的存在であった古川記之さん、前述の石岡さんを含めた若いアーティストたちでした。齊藤さんは青森の宝である鈴木作品を散逸することなく多くの人々が享受できるようにと、自分で収集した二千余点の全作品を県立郷土館に寄贈しました。古川さんは今も鈴木さんの作品を紹介するために奔走しています。石岡さんは、鈴木さんの生涯にわたり片腕となってイタリアやアメリカへも同行し、一緒に素晴らしい作品を残しました。

また、東京の野玲子さんは鈴木さんの作品に魅せられて、多くの人に見てほしいと自宅を改装して「ギャラリーま」を開設しています。連載Ⅲで紹介したように工藤正義さんは、鈴木さんの生き方や制作の姿勢、情熱を「鈴木正治の軌跡」で実に丹念に著しました。私は、その中にあ

る鈴木さんの言葉、「人格を磨き、何事にも命がけて向かう。そうしないと本物はできない。」にとっても感銘を受けました。このように多くの人々に愛され、生涯、青森の地を愛し制作に没頭し続けた鈴木さんの作品に皆さんが触れて簡素と質素の美学を感じてくださることを願っています。私は昨秋、高松市にあるイサム・ノグチ庭園美術館を訪れ、鈴木さんが好きだったイサム・ノグチの作品がとても美しく配置されているのを見て感動しました。いつか鈴木さんの作品もこのような形で多くの人々の目に触れるようになることを夢見ています。

「貸切バスで巡る 茨城・千葉美術鑑賞の旅 3日間」

平成29年度友の会初夏の研修旅行をご案内致します。

昨今の世界情勢に鑑み、会員の皆様より要望の高い海外研修旅行の実施を見合わせる事となりました。
本年度は、電車等ではなかなか訪れにくい茨城県と千葉県的美術館を貸切バスでゆったりと巡る研修旅行を企画しました。皆様のご参加をお待ちしております。



笠間日動美術館



DIC川村美術館

平成29年度 初夏の研修旅行案内

日 時:平成29年6月13日(火)～15日(木)
研修先:茨城県内・千葉県内
参加費:79,000円(JR代を除く)
募集人員:先着20名(最少催行人員は15名)
申込締切日:平成29年 4月30日(日)
旅行説明会:平成29年 5月13日(日)13:00～
申込先・問い合わせ先:鷹山宇一記念美術館
※詳細は、同封チラシをご覧ください。

研修行程(予定)

1日目:東北新幹線～郡山～貸切バス
六角堂～茨城県天心記念五浦美術館
～水戸市内ホテル泊
2日目:貸切バス～水戸偕楽園～笠間日動
美術館～春風萬里荘～成田山新勝寺
～成田空港付近ホテル泊
3日目:貸切バス～ホキ美術館～DIC川村
美術館～東京駅～東北新幹線

※JR乗車券等は「大人の休日倶楽部」会員証を利用して各自又は代理で別途購入。

新規会員入会お誘いのお願いと

友の会会員登録更新のお願い

平成28年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。
新年度も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただけるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。
なお、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員特典

- (個人) ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
②ミニシアターグッズ1割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

○特別会員特典

- (個人・法人) ①無料入館券3枚。会員証提示により個人・法人会員と
②ミニシアターグッズ2割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

○賛助会員特典

- (個人・法人) ①無料入館券3枚。会員証提示により個人・法人会員と
②ミニシアターグッズ2割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

書籍のご案内

★新「鷹山宇一画集」
一冊二千円＋消費税



★鷹山宇一素描集
一冊二千円＋消費税



★会報合本Ⅱ
一冊二千円＋消費税



★お問合せ先
鷹山宇一記念美術館

編集後記

★ひなまつりが過ぎ、春分の日のごころになると、心はずでにお花見気分・・・
本年度も会報作成にあたり、皆様方の研修旅行記等のご投稿とご協力を頂き誠に有難う御座いました。
新規会員入会のお誘い宜しくお願ひ申し上げます。
(照井壽一)